

【研修報告】

第8回アジア太平洋タバコ対策会議（APACT）に参加して

川 根 博 司*

はじめに

第8回アジア太平洋タバコ対策会議（Asia Pacific Conference on Tobacco or Health: APACT）は2007年10月17日から20日までの4日間、台湾・台北で開催された。今回の APACT に日本からは30名近くが参加し、世界40カ国約580名の参加者があったそうである。

筆者は、初日午前9時からの禁煙キャンペーンに関するワークショップに参加するため、前日の16日に広島空港からチャイナエアラインで台北に飛び立った。離陸後まもなくして、宮島の上空を通過した際に、はるかに本大学が見えた(写真1)。その後、薄い雲の上を飛んでいるときに、ふと窓から下を眺めると、飛行機とともに動く虹色の光輪に気づいた。虹の輪の中に飛行機の影は見えにくいものの、これが以前ニュースにもなったことがあるブロケン現象だと直感した。証拠写真を撮ってはいいるがカラーでないといわかりにくいので、ここに掲載できないのが残念である。



写真1 宮島上空から本大学あたりを眺めて

筆者は2日目のポスターセッションにおいて、RCCラジオで5年間にわたり行った禁煙キャンペーンについて発表した(写真2)が、この国際会議の概要を紹介しながら、発表内容を簡単に述べる。



写真2 ポスター発表

アジア太平洋タバコ対策会議（APACT）とは

APACTは1989年3月に第1回が台湾で開催されたが、米国が台湾にタバコの市場開放を迫ったことがきっかけとなっている。すでに日本は1986年に当時の中曽根首相が外圧に屈して、無関税でアメリカのタバコ輸入を受け入れてしまっていた。第2回 APACTは1991年に韓国・ソウルで開かれ、1993年には日本の大宮で第3回が開催された。筆者の APACT への出席は第3回以来の二度目であるが、この国際会議の特徴は、保健医療関係者だけでなく、いろいろな分野で禁煙活動をしている人たちが参加することであろう。

第8回 APACTのテーマは「タバコのないアジアを目指して—FCTCの実行」ということで、台湾、韓国、タイ、香港など過去2年間のFCTCに則った喫煙対策の報告書が配付された。ちなみに、FCTC（たばこ規制枠組条約）は2005年2月27日に発効した国際条約であり、日本も批准している。し

* 日本赤十字広島看護大学 kawane@jrchn.ac.jp

かし、わが国は「たばこ事業法」の中で、わが国たばこ産業（JT）の健全な発展を図ることを謳っており、世界広しといえども、このような法律を有する国は日本だけであろう。そのためもあってか、わが国の喫煙対策は欧米先進国はもちろん、いくつかのアジアの国よりも遅れているようであった。帰国後すぐに地元紙へ投稿して、国際平和都市である広島市の喫煙対策がかなり遅れていることを指摘し、ホテルやタクシーの禁煙の推進を訴えた（図1）。

遅い広島 の喫煙対策

大学教授
川根 博司 59歳
大学に籍を置き、教育・研究に携わる者として、できるだけ国際学会に出席するよう心掛けています。昨年、ドイツ・ミュンヘンで開催された欧州呼吸器学会で日本の喫煙対策について発表しました。

今年は、十月中旬に台湾・台北で開催された国際会議に参加することができた。台北市内は車の交通量が多

く、とても空気が綺麗とは
言えなかったが、バスだけ
でなくタクシーも禁煙であ
るのに感心した。

会議があったホテルでは、いわば公共の場であるロビーやレストランは全面禁煙であった。喫煙ルームの宿泊者は自室内でたばこが吸えるものの、それ以外は、一カ所だけ設けられた完全密閉型の喫煙室まで行かないといけないようだった。

（廿日市市）

図1 広島市の喫煙対策についての新聞投稿
(2007年11月9日付中国新聞より抜粋)

ポスター発表の内容

筆者は2002年の世界禁煙デー（5月31日）から2003年3月末まで、地元放送局 RCC ラジオの朝の情報番組に毎週1回電話で生出演し、アナウンサーやディレクターとともに禁煙キャンペーンを行った。このことについては、2003年に開催された第13回欧州呼吸器学会において報告した（川根，2004）。2003年4月からラジオ番組「きょうもゴゴイチ」の中で、月に一度ではあるが、禁煙講座として10数分間の生放送を続けることになった（川根，2005）。日本や海外の禁煙に関するトピックスを中心にアナウンサーと話を進めながら、未成年の喫煙防止、受動喫煙からの非喫煙者の保護、禁煙支援など包括的な喫煙対策について解説するようにした。今回は2002年5月から2007年3月までの5年間の禁煙キャンペーンをまとめて発表した。国際会議や発表の様

子は、2007年11月7日のラジオ番組で「アジアに広がる禁煙運動」と題して放送された。

おわりに

第8回 APACT の主催団体は財団法人薫氏基金会（John Tung Foundation）であるが、台湾での開催は3回目ということで、取り組み方は想像以上のものがあつた。まさに世界中からスモークフリー（無煙）社会を目指す人々が集まり、連日、各会場では熱気あふれる発表や質疑応答が行われていた。筆者は過去何度も海外での学会に出席しているが、4日間ずっとホテル（会場）に缶詰になったのは初めてではなかろうか。唯一の息抜きは、18日夜の台北ナイトツアーで外出したくらいである。1時間食べ放題のモンゴル式バーベキュー（蒙古焼肉）を腹一杯食べたあとで、参拝者で賑わう由緒ある龍山寺を訪れた。そこに漂う線香の煙の臭いと独特の祈り方は、筆者に四半世紀前にもここを観光したことを思い出させた。寺の近くにある市場（夜市）を散策した際には、ヘビ料理屋の店先に大きな蛇がぶら下がっているのを見て皆驚いた。また、タバコ店のショーケースの中に、有名ブランドのシガレットと並んでキンマ（檳榔子）が置いてあり、いずれも異国を実感させた。人通りが多いせいか、医院が夜間でも開いており、中国語の看板から歯科は牙科、歯医者は牙医ということを知った。最後に、現在世界一の高さを誇る TAIPEI 101ビルを外から見学して



写真3 ジャッキー・チェンのパネルの横で

ホテルに戻った。

19日の夜は Gala Dinner に招待されて台湾料理など大いに堪能した。踊りや手品などのアトラクションも工夫されており、楽しい一時を過ごすことができた。薫氏基金会の禁煙イメージキャラクターは、国際的アクションスターであるジャッキー・チェンが務めている。写真3は彼のパネルの横に立ち、タバコへの闘いのポーズを取ったものである。最終日お昼の閉会式をもって盛会裏のうちに会議は終了したが、事務局側の不手際により、抄録集で発表者の名前が抜けたり、抄録が消えていたりした例があったことは遺憾に思う。

謝 辞

今回の国際会議に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

文 献

- 川根博司 (2004). ラジオによる禁煙キャンペーン「キック・シガレッツ」—国際学会での発表を終えて—. *日本赤十字広島看護大学紀要*, 4, 47-49.
- 川根博司 (2005). 禁煙のストラテジー. *成人病と生活習慣病*, 35, 287-292.